

職業実践専門課程の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																								
千葉医療秘書専門学校	平成25年4月1日	萩原 知子	〒260-0014 千葉県千葉市中央区本千葉町8-16 (電話) 03-6734-2939																								
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																								
学校法人三幸学園	昭和60年3月8日	昼間 一彦	〒113-0033 東京都文京区本郷三丁目23番16号 (電話) 03-3814-9641																								
分野	認定課程名	認定学科名	専門士	高度専門士																							
商業実務	商業実務専門課程	診療情報管理士科	平成25年文部科学省 告示第3号	-																							
学科の目的	「世の中の困難を希望に変わる」をミッションとし、本学科は、学校教育法に基づき、医療業界関連分野において活躍する人材を育成するため、必要とされる知識と技術を教授することを目的としている。																										
認定年月日	平成28年2月19日																										
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な 総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																				
3	昼間	157	144		17																						
単位																											
生徒総定員	生徒実員	留学生数(生徒実員の内)	専任教員数	兼任教員数	総教員数																						
120	27人	0人	7人の内数	22人の内数	29人の内数																						
学期制度	■前期:4月1日～9月30日 ■後期:10月1日～3月31日		成績評価	■成績表: 有 ■成績評価の基準・方法 評価は5点法とする。 教科ごとに定められた評価方法で評価する際、100点法で素点を出し、それを20で割り四捨五入し、5点法に換算する。その後、授業態度、出席状況を考慮し1ランクの上下を認める。																							
長期休み	■学年始:4月1日～4月13日 ■夏季:7月23日～8月31日 ■冬季:12月21日～1月4日 ■学年末:2月18日～3月31日		卒業・進級条件	教育課程の修了や卒業は、所定の課程を修了し試験等に合格したものについて、平素の成績及び品行を斟酌して認める。																							
学修支援等	■クラス担任制: 有 ■個別相談・指導等の対応 本人及び保護者との電話連絡ならびに三者面談等を実施し、常に状況の確認を行う。また、カウンセリングルームを紹介するなど、担任のみならず学校に関わる教職員でサポートしている。		課外活動	■課外活動の種類 ボランティア活動  ■サークル活動: 有																							
就職等の状況※2	■主な就職先、業界等(平成29年度卒業生) 病院、クリニック、社会福祉施設等 ■就職指導内容 クラス担任より、履歴書指導、面接指導、進路面談を行う。また、エリア担当より就職先病院等への訪問を行っている。 ■卒業生数: 12 人 ■就職希望者数: 12 人 ■就職者数: 11 人 ■就職率: 91.7 % ■卒業者に占める就職者の割合: 91.7 % ■その他 ・進学者数: 0人  (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)		主な学修成果(資格・検定等)※3	■国家資格・検定/その他・民間検定等 (平成29年度卒業生に関する平成30年5月1日時点の情報)																							
				<table border="1"> <thead> <tr> <th>資格・検定名</th> <th>種</th> <th>受験者数</th> <th>合格者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>診療情報管理士</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>12人</td> </tr> <tr> <td>医療事務検定1級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>医療秘書検定3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>11人</td> </tr> <tr> <td>サービス接遇検定3級</td> <td>③</td> <td>12人</td> <td>10人</td> </tr> </tbody> </table>				資格・検定名	種	受験者数	合格者数	診療情報管理士	③	12人	12人	医療事務検定1級	③	12人	11人	医療秘書検定3級	③	12人	11人	サービス接遇検定3級	③	12人	10人
資格・検定名	種	受験者数	合格者数																								
診療情報管理士	③	12人	12人																								
医療事務検定1級	③	12人	11人																								
医療秘書検定3級	③	12人	11人																								
サービス接遇検定3級	③	12人	10人																								
中途退学の現状	■中途退学者 2名 ■中退率 6.3 % 平成29年4月1日時点において、在学者32名(平成29年4月1日入学者を含む) 平成30年3月31日時点において、在学者30名(平成30年3月31日卒業生を含む) ■中途退学の主な理由 進路変更、身体的疾患 ■中退防止・中退者支援のための取組 カウンセリングルーム設置・転科の実施																										
経済的支援制度	■学校独自の奨学金・授業料等減免制度: 有 日本学生支援機構の奨学金利用者に対し、入学前の学費負担を入学金のみとし、残りの学費を分割で支払うことのできる制度を導入している。 ■専門実践教育訓練給付: 非給付対象																										
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価: 無																										
当該学科のホームページURL	<a href="https://www.sanko.ac.jp/chiba-med/">https://www.sanko.ac.jp/chiba-med/</a>																										

(留意事項)

1. 公表年月日(※1)

最新の公表年月日です。なお、認定課程においては、認定後1か月以内に本様式を公表するとともに、認定の翌年度以降、毎年度7月末を基準日として最新の情報を反映した内容を公表することが求められています。初回認定の場合は、認定を受けた告示日以降の日付を記入し、前公表年月日は空欄としてください

2. 就職等の状況(※2)

「就職率」及び「卒業者に占める就職者の割合」については、「文部科学省における専修学校卒業生の「就職率」の取扱いについて(通知)(25文科学第596号)」に留意し、それぞれ、「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」又は「学校基本調査」における定義に従います。

(1)「大学・短期大学・高等専門学校及び専修学校卒業予定者の就職(内定)状況調査」における「就職率」の定義について

①「就職率」については、就職希望者に占める就職者の割合をいい、調査時点における就職者数を就職希望者で除したものをいいます。

②「就職希望者」とは、卒業年度中に就職活動を行い、大学等卒業後速やかに就職することを希望する者をいい、卒業後の進路として「進学」「自営業」「家事手伝い」「留年」「資格取得」などを希望する者を含みません。

③「就職者」とは、正規の職員(雇用契約期間が1年以上の非正規の職員として就職した者を含む)として最終的に就職した者(企業等から採用通知などが出された者)をいいます。

※「就職(内定)状況調査」における調査対象の抽出のための母集団となる学生等は、卒業年度に在籍している学生等とします。ただし、卒業の見込みのない者、休学中の者、留学生、聴講生、科目等履修生、研究生及び夜間部、医学科、歯学科、獣医学科、大学院、専攻科、別科の学生は除きます。

(2)「学校基本調査」における「卒業者に占める就職者の割合」の定義について

①「卒業者に占める就職者の割合」とは、全卒業生数のうち就職者総数の割合をいいます。

②「就職」とは給料、賞金、報酬その他経常的な収入を得る仕事に就くことをいいます。自家・自営業に就いた者は含めるが、家事手伝い、臨時的な仕事に就いた者は就職者とはしません(就職したが就職先が不明の者は就職者として扱う)。

(3)上記のほか、「就職者数(関連分野)」は、「学校基本調査」における「関連分野に就職した者」を記載します。また、「その他」の欄は、関連分野へのアルバイト者数や進

### 3. 主な学修成果(※3)

認定課程において取得目標とする資格・検定等状況について記載するものです。①国家資格・検定のうち、修了と同時に取得可能なもの、②国家資格・検定のうち、修了と同時に受験資格を取得するもの、③その他(民間検定等)の種別区分とともに、名称、受験者数及び合格者数を記載します。自由記述欄には、各認定学科における代表的な学修成果(例えば、認定学科の学生・卒業生のコンテスト入賞状況等)について記載します。

1.「専攻分野に関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

医療機関、関連協会等との連携を通じて必要な情報の把握・分析を行い、実践的・専門的な職業教育を実施することを目的として、教育課程編成委員会を設置する。委員会は次の各号に掲げる事項を審議し、授業科目の開設や目標検定設定、授業方法の改善・工夫に生かす。

- (1)カリキュラムの企画・運営・評価に関する事項
- (2)各授業科目の内容・方法の充実及び改善に関する事項
- (3)教科書・教材の選定に関する事項
- (4)その他、教員としての資質能力の育成に必要な研修に関する事項

また医療機関実習(病院実習)を通し、医療現場における医療従事者として実践的な技術を習得するとともに、業界の同国や求められる人材を把握するため、研究会等との連携を図ることで現場のニーズを確実にとらえ、本校の授業内容シラバスやカリキュラムに反映する。また実務能力レベルを計る資格・検定取得に向けても取得率の向上に向けて学習指導方法の見直し、改善に努めることも目的としている。さらに実習先である医療機関に対し、アンケートを実施することにより、学生に不足する、あるいは必要とされる能力を把握する。これらの事によって得た結果も、授業科目の開設や授業方法の改善・工夫に生かす。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会構成員は、千葉医療秘書専門学校と医療基幹施設の外部役員から成るものとし、審議を通じて示された施設等の要請その他の情報・意見を十分に生かし、実践的・専門的な職業教育を実施するに相応しい教育課程の編成を協力して行うものと位置づけている。

【教育課程編成の基本方針決め・前年の問題点抽出】

本学のカリキュラム、取り組み、人材育成増など共有を行わせて頂いた上、外部委員より、医療機関における必要な人材についてお話頂いた。その人材育成に向けての専攻分野に関した動向や新たに必要となる人材スキル等の業界の実情をヒヤリングし、委員会で協議をし、次年度の教育課程編成の基本方針を決める。さらに、前年度の問題点をピックアップし、業界の外部委員からの見識の有る改善意見も集約する。

↓

【教育課程編成の科目詳細決め】

委員会構成員の仲の千葉医療秘書専門学校教員によって、各科目の詳細を決定し、また、週酌↓改善意見も教育課程に反映させ、次年度の教育課程の仮案を完成させる。

↓

【MS委員会(書く医療秘書福祉専門学校代表教員による分野会議)にて教育課程編成の決定】

委員会構成員野中の千葉医療秘書専門学校教員による教育課程の仮案に基づいて、再度、MS委員会で協議をし、次年度の教育課程を決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

平成30年9月28日現在

名前	所属	任期	種別
三浦 昇	一般社団法人 千葉県民間病院協会 理事	平成30年4月1日～平成32年3月31日	①
大岩 正人	株式会社日本教育クリエイト 船橋支社 部長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	③
佐久間 智裕	独立行政法人労働者健康安全機構千葉労災病院 診療情報管理士	平成30年4月1日～平成32年3月31日	③

※委員の種別の欄には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

年2回 (7月、11月)

(開催日時(実績))

第1回 平成30年7月12日 10:00～12:30

第2回 平成30年11月実施予定

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

病院実習をより高い教育効果と学生自身の専門スキルへの自信を持たせるために、実習前までに必要な基本・基礎内容を2年次以降の各専門教科シラバスにポイントとして落とし込みを行った。また、社会人基礎力についても実習前まで対応力、コミュニケーション能力の向上の為に実習ガイダンスの頻度を高め、卒業生講話・業界人講話等を取り入れていくようにしている。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

本校のカリキュラムの一貫として医療機関実習を導入しており、実習を通して医療現場及び医療事務の実際を体験し、知識の習得度の確認と実践、現場で実際に患者様、職員様とコミュニケーション、対応力を学ばせて頂くことで、仕事の緊張感、厳しさのみならず、充実感ややりがいを見出すことでその後の学習意欲の向上と積極的な就職活動へつなげていくことを狙いとしている。

改めて現場実習の狙い・目的を以下の通り記載する。

①学校で履修した知識、技術を医療機関において確認するとともに、医療従事者としての自分自身を問い直す機会とする。

②医療機関における医療従事者の職務内容の理解と、医療現場の仕組みや体制を把握し、自らの社会的役割と責任を自覚する。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

診療情報管理士科2年次後期にて合計4週間の医療機関実習。あらかじめ実習を受諾頂いた医療機関において、受付業務、レセプト計算業務、電話対応等の各医療機関に定められた医療事務業務、秘書業務、受付業務に加え、カルテ管理、病歴室業務などを実践し、その処理能力、対応能力の現状把握と向上に努める。期間中は医療機関側に教育指導を依頼し、業務姿勢への指導、実践業務への教育を頂き、指定期間終了後は実習評価として、『基礎・能力』『生活態度』『実習態度』を4段階で評価を頂く。評価項目の詳細は以下の通りとする。

『基礎・能力』:基礎能力(保険・医療事務・医学、診療録等に関しての基礎的な知識、学力は有しているか)

応用能力(指示された内容が良く把握され、工夫して仕事が出来たか。)

事務実務能力(事務能力が上手くでき、計画的、創意的に仕事が出来たか)

『生活態度』あいさつ(基本的なあいさつができていたか)

マナー(社会的なマナーが正しく守られており、折り返し正しい生活態度があるか)

コミュニケーション(周りとのコミュニケーションを図り積極的に取り組んでいたか)

『実習態度』:勤務態度(実習時の勤怠、研究心があり、熱意は見られたか)

身だしなみ(正しい服装が出来、爪、髪型等から清潔な印象を相手に与えたか)

日誌等の提出物(レポート・日誌等を毎日克明に記載し期日を守って提出していたか)

患者対応の態度(患者様の身になって不愉快な思いをさせないように対応していたか)

以上の評価を確認しながら、本学担当教員についても学生の現状の習熟度と課題を明確に意向においての学習に勤められるよう、実習期間前後の打ち合わせ巡回訪問を重ねながら連携を図っている。

(3) 具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
病院実習	実際の医療現場で、受付での患者対応や入退院業務、カルテ管理業務等を経験してもらい今まで勉強してきたことがどれだけ生かせるかを計る	千葉大学医学部附属病院 聖隷佐倉市民病院 稲毛病院 千葉県済生会習志野病院 鎌ヶ谷総合病院 船橋総合病院 千葉メディカルセンター 等

### 3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

#### (1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

実践的かつ専門的な職業教育を実施し、『相手のこうして欲しいを理解し、自ら考え行動できる人材』を育成していくため、教員一人ひとりが常に業界ならびに実務に関する最新の知識を持ち、指導スキルを身につけようという向上心がなければならない。そのために、以下の通り教員研修の環境を整える。

- ・企業等から講師を招いた実践的・専門的な知識・技術・技能を修得するための研修
- ・指導力の習得・向上のための研修
- ・(株)アクティブラーニング社と提携したアクティブラーニングの手法を取り入れた教育方法の研修

なお、当該研修等を計画的に教員に受講させるに当たり諸規定に定められている。

#### (2) 研修等の実績

##### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「ユニバーサルマナー研修」(連携企業等：日本ユニバーサルマナー協会 堀川歩様)

期間：平成29年8月23日 対象：全教員

内容：

LGBT、性同一性障害等への理解を深め、その対応に伴うマナーを身につける

研修名「今後の医療業界へのIT参入について」(連携企業等：株式会社日本教育クリエイティブ船橋支社 大岩正人様)

期間：平成29年8月25日 対象：全教員

内容：医療現場へのIT参入、医療事務業務のAI化の可能性、将来を見据えた医療事務員の役割

研修名「医療・介護従事者のための接遇研修」(連携企業等：株式会社エム・アイ・エスインターナショナル 千葉県民間病院協会主催)

期間：平成29年8月29日 対象：医療秘書科教員

内容：医療現場での接遇、対応のロールプレイング

研修名「医療現場視点からの人材育成」(連携企業等：成田赤十字病院 経営企画課 山本純平様)

期間：平成29年8月30日 対象：全教員

内容：教育現場で習得したい医事スキル、診察スキルについて

研修名「医療・介護従事者のための接遇研修」(連携企業等：株式会社エム・アイ・エスインターナショナル 千葉県民間病院協会主催)

期間：平成30年8月31日 対象：医療秘書科教員

内容：医療現場での接遇、対応のロールプレイング

##### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「担任力向上研修 メンタルヘルス研修」(連携企業等：千葉県専修学校各種学校協会主催)

期間：平成29年3月27日 対象：中堅職員

内容：学校現場でのメンタルヘルス、生徒対応時に気をつけるべき注意点

研修名「授業力向上研修 先生がやる気になるために」(連携企業等：株式会社アビリティートレーニング 木下晴弘様)

期間：平成30年3月28日 対象：全教員

内容：生徒指導メソッドの解説・授業方法について

研修名「外部研修」(連携企業等：株式会社ウィルシード様)

期間：平成29年7月～12月 対象：1～3年目教員

内容：業務の進め方について

研修名「SANKOビジネスアカデミー」(連携企業等：株式会社リクルート様 他)

期間：平成29年9月～12月 対象：4年目以上の教員

内容：それぞれ

### (3) 研修等の計画

#### ① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名「医療従事者による研修」(連携企業等:実務者)

期間:平成31年3月末 対象:全教員

内容:実務者による研修を予定

研修名:「社会人の為の接遇&マナー研修」(連携企業等:ANA)

期間:平成30年10月～12月 1日 対象:4年目以上教員

内容:立ち振舞い・敬語対応等社会人としてのステップアップに必要な内容

#### ② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名「自ら課題を設定し、自律的に動く中堅リーダー育成研修」(連携企業等:株式会社リクルート)

期間:平成30年10月～12月、2日間 対象:4年目以上教員

内容:ケースシミュレーション・グループディスカッションを通じた自ら考え学ぶ力の醸成

研修名「自分とメンバーのやる気を引き出すモチベーションアップ・トレーニング」(連携企業等:産能)

期間:平成30年10月～12月 対象:4年目以上教員

内容:モチベーションのメカニズムを理解し、自身のモチベーションを高め、仕事の生産性を向上させるスキルを身につける。

研修名「ストレスコーピング・仕事の進め方」(連携企業等:株式会社ウィルシード)

平成30年11月5日・6日 対象:新卒1年目教員

内容:仕事をスムーズに進めていくための物事のとらえ方、仕事の進め方

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

学校関係者として、医療分野の業界関係者及び卒業生、保護者、高等学校の教員等とともに、学校関係者評価委員会を設置して、当該専門分野における実務に関する知見を生かして、教育目標や教育環境等について評価し、その評価結果を次年度の教育活動及び学校運営の改善に役立てる。

学校関係者評価は、「私立専門学校等評価研究機構 専門学校等評価基準」の評価項目を使用して実施した自己点検・自己評価の結果を元に「専修学校における学校評価ガイドライン」に則って実施することを基本方針とする。また、評価結果は学校のホームページで公表する。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	(1) 教育理念・目標
(2) 学校運営	(2) 学校運営
(3) 教育活動	(3) 教育活動
(4) 学修成果	(4) 学修成果
(5) 学生支援	(5) 学生支援
(6) 教育環境	(6) 教育環境
(7) 学生の受け入れ募集	(7) 学生の受け入れ募集
(8) 財務	(8) 財務
(9) 法令等の遵守	(9) 法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	(10) 社会貢献・地域貢献
(11) 国際交流	(11) 国際交流

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

各項目ごとに話し合われた評価をまとめ、改善点について「短期・中期・長期」の視点より分類し、短期目標についての改善点について検討した上で、検討内容について次回学校関係者評価委員会へ提出するものとする。

(10) 社会貢献・地域貢献については、病院内でのイベント等のボランティアスタッフ参加などの意見をいただいたため、そのようなニーズがないか訪問を通して調査し、実施していく。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

平成30年9月30日現在

名前	所属	任期	種別
市川 静夫	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター 医事課課長	平成30年4月1日～平成32年3月31日	企業委員
林 有香	医療法人社団誠馨会 千葉メディカルセンター	平成30年4月1日～平成32年3月31日	卒業生
堤 隆太	飛鳥未来高等学校 教頭	平成30年4月1日～平成32年3月31日	高校関係
奥 敏幸	千葉医療秘書専門学校		副校長

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例) 企業等委員、PTA、卒業生等

(5) 学校関係者評価結果の公表方法・公表時期

ホームページ・広報誌等の刊行物・その他( ) )

URL

<http://www.sanko.ac.jp/pdf/share/disclosure/kankeisya/chiba-med.pdf>

5. 「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1) 企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

「専門学校における情報提供等への取り組みに関するガイドライン」に則って情報提供し学校・企業間の共通理解を深め、教員活動を活性化させ学校運営をより円滑化させる。また、学生の就職先・実習先として関連の深い企業の各関係者に、本学職業実践専門課程についての理解を深めてもらい、さらに連携・協力の推進に資するために、本学の教育活動・学校運営の状況・情報を積極的に提供する。そして、キャリア教育・職業教育をはじめとした教育活動の状況等について、業界関係者に情報提供することで、相互の対話が促され、実習・就職し同等企業との連携による活動の充実や、業界等のニーズを踏まえた教育内容・方法の改善につなげることを基本方針とする。

(2) 「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1) 学校の概要、目標及び計画	●三幸学園について(事業案内、経営理念、歴史)
(2) 各学科等の教育	●三幸学園の教育 ●学科・専攻紹介 ●資格・就職
(3) 教職員	●講師紹介
(4) キャリア教育・実践的職業教育	●病院実習 ●就職支援
(5) 様々な教育活動・教育環境	●施設紹介 ●企業・地域コラボレーション
(6) 学生の生活支援	●サポートシステム ●学生寮・一人暮らし
(7) 学生納付金・修学支援	●募集学科・学費 ●学費サポート制度
(8) 学校の財務	●幹事監査報告書 ●資金収支計算書 ●消費支出計算書 ●貸貸対照表 ●財産目録
(9) 学校評価	●自己点検自己評価・学校関係者評価委員報告書
(10) 国際連携の状況	
(11) その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 情報提供方法

~~ホームページ~~ ・ 広報誌等の刊行物 ・ その他( ) )

URL:<http://www.sanko.ac.jp/chiba-med/>



授業科目等の概要

(商業実務専門課程診療情報管理士科) 平成30年度															
分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必 修	選 択 必 修	自 由 選 択						講 義	演 習	実 験 ・ 実 習 ・ 実 技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
○			看護学 (医療総論)	医療機関に勤める者の基礎知識である、法律(医療法)や職種について学ぶ	1 通	30	2	○			○				
○			看護学 (解剖・生理)	医学的基礎知識を学ぶ。解剖学でからだの形と構造を生理学でからだの働きを学修する。	1 通	75	5	○			○				
○			看護学 (薬理学)	各病気の薬物療法に使用される薬について基礎部分を中心に学ぶ	1 後	15	1	○			○				
○			看護学 (検査学)	病院で行われる医学検査について詳しく学ぶ	1 後	15	1	○			○				
○			看護学 (病理学)	病気の成り立ちを細胞レベルから各臓器にいたるまで学ぶ	1 後	30	2	○			○				
○			看護学 (医療用語)	病院で必要な医療用語を幹事や略語として学ぶ	1 後	15	1	○			○				
○			ビジネス マナー	社会人年のマナーと知識の基礎を学ぶ。サービス接客検定・ビジネス能力検定取得に向けての学習をする。	1 通	75	5	○			○				
○			診療録 管理学	診療録の必要性・重要性、管理体制を教科書を元に学修する。	1 前	15	1	○			○				
○			医事CP・ 電子カルテ I	医療事務の基礎知識を元に医事コンピュータを使用したの診療報酬算定技術を学ぶ	1 後	30	2	○			○				
○			医科医療 事務 I	点数表を読解し、社保・国保・退職者・後期高齢の外来、入院の点数算定を主に行う。	1 通	300	20	○			○				
○			医療秘書 概論	日本の医療保険制度や健康保険法を中心に医療の現場に必要な知識を学ぶ。	1 通	30	2	○			○				

(商業実務専門課程診療情報管理士科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			ペン字	硬筆書写技能検定2,3級を受検することにより、履歴書をはじめ、書類を専門的な技術、知識を持って書けるようにする	1通	60	4	○			○				
○			電卓検定	電卓検定3級取得を目指す。その中で、基本的な電卓の使い方を学ぶ。	1前	15	1	○			○				
○			パソコン実習Ⅰ	パソコン技能検定3級の取得を目指す。Wordでは入力の基礎、表作成、ビジネス文書の作成を行い、Excelでは基本的な操作方法（関数を含む）、グラフの作成を習得する	1通	60	2			○	○				
○			未来デザインプログラムⅠ	フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」を元に、成功する為の思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ	1通	60	2	△	△	○	○				
○			プレゼンテーション実践Ⅰ	社会人になるにあたり必要なコミュニケーション能力を高める	1通	60	4	○			○				
○			疾患学	病院で出会う患者さんの病気について内科的、外科的治療を中心に学ぶ	2通	60	4	○			○				
○			看護学（母性）	女性の身体の仕組み、妊娠、出産について学ぶ	2後	30	2	○			○				
○			看護学（医療用語Ⅱ）	医療従事者として相応しい医療用語、略語、専門用語を学ぶ	2前	30	2	○			○				
○			秘書実務	医療従事者のマナー・心得・患者様の心理とその対応等、医療機関での患者接遇を学ぶ	2通	15	1	○			○				
○			医事Ⅱ介護事務	調剤事務、介護事務を学び様々な分野の知識を深める	2通	15	1	○			○				
○			医事CP・電子カルテⅡ	医療事務の基礎知識を元に医事コンピュータを利用しての診療報酬算定技術を学ぶ。	2前	60	4	○			○				

(商業実務専門課程診療情報管理士科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			臨床医学総論 (外傷学、先天異常等含む)	診療情報を扱うために必要な基礎医学用語を理解する。用語を覚えるだけでなく、それを通じて人体の複雑さを紹介し医療後有無の奥深さを伝える。	2前	30	2	○			○				
○			臨床医学各論 I (感染症及び寄生虫症)	感染症及び寄生虫における感染経路・感染症類型などに触れるとともに、細菌感染症・ウイルス感染症・真菌感染症や寄生虫症等それぞれの主要疾患について、特徴・症状・検査・治療を理解する。	2前	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 II (新生物)	新生物の分類(癌と関連)とその特徴及び全身に発症する各新生物について、発症の原因、主症状、検査法等を学習する。	2前	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 III (血液・退社・内分泌等)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何かで使う病名かを理解する。	2前	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 IV精神・脳神経・感覚器系等)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何かで使う病名かを理解する。	2後	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 V (循環器・呼吸器系)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何かで使う病名かを理解する。	2後	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 VI消火器・泌尿器系)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何かで使う病名かを理解する。	2後	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 VII (周産期系)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何かで使う病名かを理解する。	2後	15	1	○			○				
○			臨床医学各論 VIII (皮膚・筋骨格系等)	発症頻度の高い疾患名は確実に記憶し、特徴的な症状・検査法・治療法も理解する。稀な疾患も疾患名は覚え、どこの病名か、何かで使う病名かを理解する。	2後	15	1	○			○				
○			医療管理総論	医療資源(人、モノ、金、情報)、医療制度、医療供給体制、そして医療関連法規など、将来の医療従事者に不可欠な知識を学習する。	2前	15	1	○			○				
○			診療情報管理 I (法令・諸規則)	診療情報管理士の教育・資格制度や、診療情報管理を行ううえで備えるべき法規の知識や部門のあり方、個人情報保護法について学ぶ。	2後	15	1	○			○				
○			診療情報管理 II (診療情報管理士の実務)	診療情報管理の業務内容実務について学ぶ。また診療記録の種類やPOMR等についても学ぶ	2前	15	1	○			○				

(商業実務専門課程診療情報管理士科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			国際統計分類 I	人口動態統計のしくみ、国際疾病分類（ICD）についての理解を深め、その歴史と現状を理解する。国際統計分類群に属する分類体系について学ぶ	2前	15	1	○			○				
○			国際統計分類 II	WHO（世界保健機関）の定めた世界共通の疾病コードを学び、正確なコーディングが出来るようにコードの検索に必要な形態を学ぶ。	2後	15	1	○			○				
○			医療管理各論 I（病院管理）	病院の組織や経営管理部門の業務内容を理解する。また近年注目を浴びてきた医療の安全管理についても学ぶ。	2前	30	2	○			○				
○			医療管理各論 II（医療保険・介護保険制度）	医療保険制度やDPC制度、介護保険制度を学習する。DPC/PDPSについては、診療情報管理士が業務として携わることが多いことから、実践力を身につける。	2後	15	1	○			○				
○			医療管理各論 III（医療安全・医療の質管理）	医療安全、医療の質管理、院内データの活用について学ぶ。	2後	15	1	○			○				
○			保健医療情報学	情報通信技術（IT）の基礎と、医療情報・診療情報の種類と特性などを学ぶ。診療情報管理士として、病院情報システムに携わる際の基礎を身につける。	2後	15	1	○			○				
○			病院管理と社会保険	医療法をはじめ、医療従事者関連の各法律と病院の業務を知り病院経営管理の理論を学ぶ	2通	30	2	○			○				
○			パソコン実習 II	パソコン技能検定準1級の取得を目指す。Wordでは入力の実用、図形（地図・組織図等）、段組、ルビの作成を学び、Excelでは操作の実用と関数・VLOOKUP・HLOOKUP・AND・OR・データベース関数等を学ぶことではがき作成、検索、抽出、集計等を習得する。	2通	60	2			○	○				
○			パワーポイント演習	ツールの違いやデジタルプレゼンの必要性を理解し、画面構成・表示モード・テキスト・図形・グラフ挿入を学ぶことでフリーデザインによるパワーポイント作成を習得する	2通	60	2	△	△	○	○				
○			手話	手話の必要性を理解し、基礎的な手話を学ぶことで、手話による自己紹介や簡単な会話を習得する	2通	30	2	○			○				

(商業実務専門課程診療情報管理士科) 平成30年度

分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
○			未来デザインプログラムⅡ	フランクリン・コヴィーの「7つの習慣」を元に、成功する為の思考行動習慣の法則を体系的に学ぶ。	2前	45	1	△	○	○					
○			病院実習	実際の医療現場で、受付での患者対応や入院退院業務等を経験させてもらいいままで勉強してきたことがどれだけ生かせるかを計る	2後	180	6		○	○					○
○			医療統計Ⅰ(統計理論)	診療情報を活用するための基礎として統計処理の基礎知識、根拠に基づいた医療、データ処理の実際を学ぶ。	2後	30	2	○		○					
○			医療概論	医療と医学に関する歴史的変遷を知った上で、医療の現状を理解する。医療成立の原則と、医の倫理に関して学ぶ。	3前	15	1	○		○					
○			人体構造・機能論	人体の基本的仕組みを系統的に理解すること(解剖学、組織学)と、その働き(生理学)を学び、姓名の営みの基本を理解する。	3前	15	1	○		○					
○			医学・医療用語	人体の構造・機能、症状、診断名、医療行為などの必要な専門用語を習得し、診療記録を適切に理解できることを目的とする。	3前	15	1	○		○					
○			医療情報学Ⅱ	オー橋岡島システムや電子カルテシステム等の病院情報システム及び地域医療システムを学ぶ。また医療情報の標準化と情報セキュリティの基礎を学ぶ。	3前	15	1	○		○					
○			診療情報管理Ⅲ(DPC・石事務作業補助者・がん登録の実務)	診療情報管理士が業務として関ることが非常に多い、DPC業務や医師事務作業補助業務、癌登録業務などについて実務上求められることを踏まえて、実務者の視点から学習する。	3前	15	1	○		○					
○			診療情報管理士受験対策ゼミ(基礎分野)	1・2年生で学んできたことを再確認し、診療情報管理士認定試験に向けて、医学知識を十分に付けさせる。	3通	180	12	○		○					
○			診療情報管理士受験対策ゼミ(専門分野)	1・2年生で学んできたことの再確認の為に問題集を活用し、診療情報管理士認定試験の専門分野の対策を行う。	3通	180	12	○		○					
○			診療情報管理士受験対策ゼミ(分類分野)	病名・解剖図を頭に描きながら臓器の部位、一棟を確認しながら、確実なコードが付与できるように技術の習得を目的とする。	3前	75	5	○		○					

○		医療事務研究特講	難易度の高いMS準1級にむけて算定対策や法規を理解する。また、DPCの概論やDPCの算定について学ぶ。	3通	60	4	○													
○		就職試験対策	就職試験に向け、筆記試験対策、面接対策を行う。	3通	60	4	○													
○		医療秘書検定特講	医療秘書技能検定準1級合格に向け、検定対策を行う。診療情報管理士認定し嫌悪起訴分野の対策も行う。	3前	60	4	○													
○		パソコン実習Ⅲ	データベースの考え方、また一つのミスが致命傷となり全体へ影響すること等を学ぶ。CESSの操作は元より、身長勝確実なチェックを重視する。	3通	60	2						○	○							
○		人間関係論	複雑に絡む人間関係をよりよく関わることを心理学を通して理解する。	3後	30	2	○													
○		医療マーケティング論	マーケティングの基礎を学ぶことで、ソーシャルマーケティングの重要性と、ソーシャルマーケティングの知識を身につける。	3後	15	1	○													
○		医事CP(DPC)	DPCの算定知識を学びながら、ICDコードとの関連性について理解を深める。	3後	15	1	○													
	○	教養・文化の学修(A)	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や、文化学習を行う(美容・健康・職・福祉・書など)	1前	30	2	○													
	○	教養・文化の学修(B)	社会に出るにあたり、自らに必要な技術知識の習得や、文化学習を行う(美容・健康・職・福祉・書など)	1後	30	2	○													
○		ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	1通																
○		ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	2通																
○		ホームルーム	検定や行事等のスケジュール確認や伝達事項の確認を行う。	3通																
				64	科目		2685単位時間(161単位)													

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
所定の課程を修了し試験等に合格したものについて、平素の成績及び性行を斟酌して認める。また、成績評定に関しては別に定め、出席時間数が授業時数の3分の2に満たない者については該当科目の認定をしない	1学年の学期区分	2期	
	1学期の授業期間	15週	

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。